

句とても忽にしてはならない事と考へます。

尙終りに一言申した事は何て子供に談話等をして、子供の精神上に一種の感動を與へ其れを有効ならしむるには、ど一しても其の任に當てざる其の人に其の精神がなければならぬのであります。わとへ有益の談話をなし、有益の行爲をなして見せても、其の精神がなければ無益の骨折損となるのであります。

子供のまね

長野 飯島 八千溪

私の一友に、一男一女の有るものがある、總領わ男で五つ、次わ、女で三つである、其の三つなるのが、一日、母の障子の切張をする側に居て、騒いで居たが、母が、便所に立ち、歸り足で洗

濯物の手がしをして來て見ると、三つなるのが居ない、ソコテ小夜子〜と呼ぶと、次の室の襖をスト開き、かーちやん、かんか結った、と、出で來た有様をみれば、今障子を張つて居た糊を、頭の毛え、皆塗り附けて、夫れが体中え垂れて居る御當人わ一向平氣で得意なものである、之わ其の前日、母なる人が、髪を結うたのを見て居てのまねとわかり、家内大笑をしたとの話しであつた。

Better their laughter,
than a chamber neat.

居室の美ならんよりも

子等の嬉笑なるかな